



阿寺棒

波田 尚大

今月ご紹介するのは「阿寺棒(あてらぼう)」と呼ばれていた道具です。写真 1 に 2 本の道具が確認できますが、当館では全長 105 cm のものと、50cm のものを所蔵しており、形状は打撃部と持ち手に分かれていて、打撃部の断面は半円型です。寄贈受入時の平成 3(1991)年に作成した「民俗資料基本カード」によると、「くるり棒のように麦、米の脱穀に使用」したとのことで、サイズの小さいものについては写真 2 のように使用していたと考えられます。



写真 1 阿寺棒

寄贈者が「阿寺棒」の説明を『東吾野の生活誌〈農村高齢者活動モデル地区育成事業生活誌〉』に下記のとおり寄稿しています。

「この阿寺棒は泥棒よけ、長沢喧嘩に阿寺賭博の時にも使う自衛の武器でした。これを最初に作りだしたのが阿寺だったので阿寺棒といいます。阿寺から嫁いた地方にも阿寺棒があると思います。普段の平和な時には農具としてシノウに使い、くるり棒の先祖ともいい刀剣と同じに大小あり、用途によって使い分けました。」



写真 2 大麦を横槌で叩く

この記述をまとめると、①「阿寺棒」は自衛のための武器として使用した、②阿寺とは長澤村（現在の飯能市大字長沢）内の小字名で、この地で作られたので阿寺棒と命名された、③普

段は農具として脱穀の際に使用し、大きいものと小さいものを使い分けていたこと、がわかります。

この「阿寺棒」は先に述べたように打撃部の断面が半円型になっています。これは、打撃部の面積が広ければ広いほど一度に叩くことのできる穀類の量が増えるためです。つまり、人を叩くためではなく、穀類を叩くための形状をしていることから、「自衛の武器」としての機能というのは後になって付け加えられたものと考えられます。

実際のところ、市域ではこの 2 本の「阿寺棒」以外に同形状の道具が存在していたか、「阿寺棒」という名称の道具が存在していたか明らかになっていません。

同じ機能、近い形状の道具として、横槌や叩き棒、朶ぶち棒といった道具などが挙げられますが、「阿寺棒」はこうした機能を持つ阿寺独自の道具だと言えるかもしれません。

本記事をご覧になった方で、阿寺以外の地域でこの道具を使用していた、また「阿寺棒」という名称を使用している、「阿寺棒」以外の名称を知っている、という方は博物館までご連絡ください。

【参考文献】

飯能農業改良普及所編『東吾野の生活誌〈農村高齢者活動モデル地区育成事業生活誌〉』昭和 57(1982)年 2 月/日本民具学会編『日本民具辞典』株式会社ぎょうせい 平成 9(1997)年 5 月